３．事業報告

（以後の記述においては、「☆」を付けて担当部局を記した。）

（１）公益①

Ａ．概要

ア．公益①では、視覚障害に関する啓発及び視覚障害者の生活を支援する各種事業を行った。

イ．視覚障害当事者への情報提供とともに、一般市民に対する視覚障害についての正しい知識の普及に努めた。また、中途視覚障害者を中心とした相談活動等を通じて、京都府内で暮らす視覚障害者の社会参加促進を支援した。

Ｂ．自主事業

ア．視覚障害情報誌《点字京都》の発行　☆情報宣伝部

ａ．点字版・墨字版・録音テープ版・デイジーＣＤ版・Ｅメール版をそれぞれ発行し、希望者に届けた。

ｂ．第６９５号～第７０６号及び号外を発行した。

イ．三療学術研修会の開催　☆三療部

綾部市で北部研修会を実施したほか、三療学術講座を４日間にわたって開催した。

ウ．目の健康講座の開催　☆地域支援部

２か所で開催した。

エ．第２９回京都視覚障害者文化祭典　☆文化部

２月２４日　　京都ライトハウス

オ．街角点字教室　☆事務局

京都市内３会場、府内３会場で実施した。

カ．指導者研修会の開催　☆事業企画部

２月２日～２月３日　　京都ライトハウス

キ．各種スポーツ大会の開催　☆スポーツ部

京視協ゴールボール大会（３月３１日　　京都ライトハウス）

ク．各種スポーツ大会への派遣等　☆スポーツ部

ａ．グランドソフトボール選手強化事業

ｂ．第５６回近畿視覚障害者グランドソフトボール大会

６月３日　　奈良県心身障害者福祉センター

ｃ．第４０回近畿視覚障害者フロアバレーボール大会

１１月１１日　　エディオンアリーナ大阪

ｄ．第５６回近畿視覚障害者卓球大会

１１月２５日　　大阪市長居障がい者スポーツセンター

Ｃ．受託事業

ア．京都市中途失明者生活指導員派遣事業　☆事務局

ａ．「京都ロービジョンネットワーク」の紹介リーフレット「さくら」の本格的な配布に伴い、医療機関からの紹介ケースが飛躍的に伸びた。念願であった、見えにくくなってきた早い時期に福祉への紹介が実施され始めたことは、非常に有意義であり、歴史的な年であった。

ｂ．一般職の就労を希望される方が増えてきた。就労相談できる公的機関と連携し、視覚障害の障害特性を丁寧に伝えることができたため就職に結びついたケースがあるが、まだまだ数は少ない。実績を重ねて課題を整理しながら関係機関との連携を深めていくことが今後の課題である。

イ．視覚障害高齢者社会生活教室の開催　☆高齢部

ａ．本部開催

第１回高齢者福祉のつどい（１１月１５日　京都ライトハウス）

第２回高齢者福祉のつどい（３月１５日　京都ライトハウス）

ｂ．地域開催　　【京都府内】７地域　【京都市内】１１地域

ウ．京都府盲婦人家庭生活訓練事業等　☆女性部　　７地域

エ．京都市視覚障害者家庭生活訓練事業等　☆女性部

ａ．本部開催　　５教室

ｂ．地域開催　　７地域

オ．盲青年等社会生活教室　☆青年部

【京都府内】３地域　【京都市内】８地域

カ．視覚障害者スポーツ大会事業　☆スポーツ部

第５０回京都視覚障害者体育大会（１０月２１日　京都市立楽只小学校）

キ．点訳奉仕員養成等　☆市民啓発部

ａ．点訳奉仕員養成講習会（京都府内開催分）･･･３地域

ｂ．点訳奉仕員認定試験　（京都府内開催分）

【府内北部会場】９月１３日　　福知山市総合福祉会館

【府内南部会場】　９月１３日　　京都ライトハウス

ｃ．点訳奉仕員講師養成事業　点字指導者研修会

【開催地域】北部、南部

ク．中途失明者対象訓練諸事業　☆ＩＴ活用支援部及び事務局

ａ．京都府中途失明者点字講習会 ４地域

ｂ．京都府パソコン講習会 ２地域

ｃ．京都府パソコン指導者講習会 ２地域

ｄ．京都府デイジー講習会 ４地域

ｅ．京都府その他携帯電話等最新機器講習会 １地域

ｆ．京都市中途失明者点字講習会 ３回

ｇ．京都市パソコン講習会 ３回

ｈ．京都市デイジー講習会 ４回

ｉ．京都市その他携帯電話等最新機器講習会 ７回

ケ．視覚障害者更生訓練事業の実施　☆地域支援部

本年度も「視覚障害者ふれあいのつどい」として、府内４か所で実施した。

コ．京都市成人講座（文化部） １０会場

サ．京都市点字広報等発行事業

引き続き「京都市障害保健福祉のしおり」の視覚障害者対応版が視覚障害の身体障害者手帳取得時に配布できるよう、点字版・墨字版・テープ版・デイジーＣＤ版を発行した。

（２）公益②

Ａ．概要

ア．公益②事業では視覚障害者へのガイドヘルパー派遣及びガイドヘルパー養成研修の開催等を行っている。

イ．４月に同行援護の単価が改正となったが、この１年においては旧単価と新単価の対象者が混在することとなった。

また制度改正に伴って、正副会長と一緒に同行援護に関する学習会を行った。

ウ．ガイドヘルパー増員を目的とした広報活動の充実

昨年度に引き続き、行政窓口や各大学、眼科等へガイドヘルパー啓発パンフレットの設置を依頼した。

また、関係機関等へはガイドヘルパー募集の案内チラシ等を設置してもらった。

エ．受託研修に関して

ａ．京都府から受託して実施している同行援護従業者養成研修については、北部会場についてあい丹後の協力もあり、今年度初めて宮津市で開催することができた。

ｂ．京都市から受託しているガイドヘルパーの現任研修を引き続き実施した。今年度は、ガイドヘルパーのメンタルヘルスをテーマに、ガイド中の利用者とガイドヘルパーの心理を掘り下げながら、支援中にヘルパーとして意識する点について学んだ。

オ．視覚障害者が入院した際、院内での代筆・代読の支援をしてほしいという会員の要望をもとに京都市に働きかけた結果、地域生活支援事業において６月１日より「京都市視覚障害者入院時意思疎通支援事業」が開始となった。

カ．京視協ガイドヘルプステーション及び南部ガイドセンターの取り組み

ａ．今年度も継続しヘルパー不足への対応として、定年を迎えるガイドヘルパーの業務遂行状況を確認し、１年の活動延長を打診した。活動延長の了承がとれたガイドヘルパーには継続して活動してもらっている。

ｂ．単価の改定を受け、ガイドヘルパーの給与について車イス手当と緊急派遣手当の新設を行った。

ｃ．新規利用希望者の受け入れについての見直しを図り、昨年度と比較すると倍の人数の受け入れができた。

ｄ．利用者懇談会をひきつづき実施した。

ｅ．登録ヘルパーに対しての研修については、利用者からの声が多かった実技の確認という点において、当事者にも講師となってもらい研修を実施した。また利用が多くなってきた車イス利用者に対応するため、車イス研修を行い、受講いただいたヘルパーに実際に車イス利用者のガイドにあたってもらっている。

ｆ．同行援護事業所等連絡会へ委員を派遣し、全国的な同行援護の発展をめざした取り組みに協力をしている。

Ｂ．ガイドヘルパー養成等

ア．京都府視覚障害者ガイドヘルパー養成研修の受託

＜一般＞３会場

＜応用＞３会場

イ．京都市視覚障害者ガイドヘルパー現任研修の受託　　４会場

ウ．登録ヘルパー現任研修 ７回

エ．新規登録ヘルパー説明会 ３回

Ｃ．会議・打ち合わせ等

ア．行政との折衝　　対京都府３回　　対京都市１回

イ．同行援護事業所等連絡会運営委員会への参加 ８回

ウ．同行援護事業所等連絡会研修会への参加 ３回

Ｄ．居宅支援事業所情報提供事業（ガイドヘルパーネットワーク事業）

利用登録数 ８３０名

登録ヘルパー ３９３名

派遣件数 １８件

Ｅ．文書発行

対外文書 ６４号

対内文書 ３３号

ガイドヘルパー宛文書 １２回

利用者宛文書 ４回

Ｆ．京都府内視覚障害者ガイドヘルパー派遣実績　（２０１９年３月３１日現在）

実利用者数（１年間に利用があった人数） ６３５名

派遣件数 ２９,３１７件

派遣時間数 １０２,２８４時間

登録ガイドヘルパー数 ３９３名

実ガイドヘルパー活動数（１年間に活動した人数）３９０名

（３）収益①

Ａ．概要

ア．収益①事業では、本会会員の視覚障害者三療家が、鍼・灸・マッサージによる治療を健康保険で行った際の請求代行業務を行った。

イ．厚生労働省の療養費削減政策に伴い、施術者数と取扱件数の減少傾向に歯止めがかからない状態を余儀なくされている。なおかつ、受領委任制度開始に伴う申請様式の変更及び提出書類増加等による請求事務の煩雑化を理由に保険離れが予想される。今後、着実に運営しながらレセプト件数増を追及しなければならない。そのためにも、三療部会員の保険取扱希望者を調査・発掘するとともに、研修や意見交換の機会をより増やす必要がある。

Ｂ．保険審査会の活動

厳正厳格な保険取扱いの事務処理の審査機関としての役割を担うとともに、適正迅速な指導・支援と情報開示に努めた。

毎月審査会を開催した。

Ｃ．２０１８年度保険取扱い状況

請求件数 ４,５４３件

施術金額 ９２,０９３,０３８円

請求金額 ７２,９２８,５２０円

施術者数 ４４７名

保険者数 ４７３名

（４）収益②

Ａ．概要

ア．収益②事業では、行政発行物の点字版・録音版の製作及び発送等を行った。

イ．京都市の市民しんぶんや市会だよりの録音版製作に加えて、挟み込み等で不定期に発行されるお知らせや、視覚障害者が委員として参加している会議の資料についても、点字版・録音版の製作及び発送の受注に引き続き努力した。

ウ．その結果、 京都市においては、行政から各家庭への配布物のかなりの部分が、点字版・録音版で提供されるようになった。その一方、配布される情報の中には、詳細はホームページを参照するようになっている内容も増えたが、視覚障害者にはアクセス困難な物も多い。今後も視覚障害者に対する情報提供の充実に向けて、要望活動を展開していくと共に、受け皿としての受注の拡大についても一層努力する必要がある。

エ．これまで点字版しか発行されていなかった「京都府障害者福祉のてびき」について、長年の要望の結果、デイジーＣＤ版を発行することができた。

オ．京都市以外の市町村における情報提供の現状把握と改善要望については、各地での情報・コミュニケーション条例施行の趣旨も踏まえ、地域団体とも協力し、体制整備の支援も含めて、取り組んでいく必要がある。

Ｂ．主な製作物

ア．京都市「声の市民しんぶん」等の製作・配布

ａ．全市版及び各区版のテープ版・デイジーＣＤ版を毎月製作し配布した。

ｂ．「声の市会だより」のテープ版・デイジーＣＤ版を７回製作し配布した。

イ．年末年始のごみ収集日変更など日常生活を送る上で不可欠なビラをはじめ、健康診査のお知らせなど、一般家庭に市民しんぶんと共に配布される案内の点字版・テープ版・デイジーＣＤ版を製作した。また、京都府・市議会議員選挙のお知らせ等の配布業務を行った。

（５）他①（厚生事業）

Ａ．概要

厚生事業では、記念事業等準備資金・互助基金・弓削基金の各会計を運用した。

Ｂ．会員の互助活動

ア．慶弔

結婚祝 ０件

金婚祝 ５件

銀婚祝 ３件

米寿祝 １１件

白寿祝 ０件

傷病見舞 ２７件

弔慰 ２０件

餞別 ０件

火災見舞 ０件

風水害見舞 ３０件

地震見舞 ３件

イ．今年度中に亡くなられた方々

※以前に逝去された方で今年度ご報告があった方を含む。

今井　一夫　　様（右京地域）

木久　茂　　　様（中京地域）

立脇　千津子　様（西京地域）

玉中　冨美子　様（西京地域）

井　　節男　　様（伏見地域）

篠木　幸二郎　様（伏見地域）

田島　代根子　様（伏見地域）

寺田　憲二　　様（伏見地域）

藤井　和夫　　様（伏見地域）

辻松　剛作　　様（南地域）

小池　よし　　様（京丹後地域）

谷　　しず枝　様（京丹後地域）

水谷　佳子　　様（宮津地域）

藤田　節代　　様（福知山地域）

秋本　幸吉　　様（亀岡地域）

谷　　スエ　　様（亀岡地域）

島田　祐三郎　様（長岡京地域）

岩佐　亜紀　　様（宇治地域）

中島　稔　　　様（城陽地域）

西岡　良一　　様（城陽地域）

米光　良子　　様（城陽地域）

科野　修　　　様（木津川地域）

Ｃ．本会会長表彰者

ア．弓削賞

城野　時一　　様（北地域）

田村　敏明　　様（福知山地域）

イ．本会活動援護功労表彰

学校法人 京都仏眼教育学園　様

ウ．地域団体活動援護功労表彰

福井　恭子　　様（福知山地域）

米田　治子　　様（福知山地域）

泉　　純子　　様（宇治地域）

上田　利枝　　様（宇治地域）

臼井　好江　　様（宇治地域）

勝山　律子　　様（宇治地域）

河原　節子　　様（宇治地域）

楠井　智子　　様（宇治地域）

滝川　洋子　　様（宇治地域）

竹村　加代　　様（宇治地域）

尾藤　都　　　様（宇治地域）

和佐　明美　　様（宇治地域）

（６）法人

Ａ．概要

ア．法人事業では、全会計の管理を行うとともに、会員の交流を深める事業や会議などを行った。

イ．事業としては、新年のつどいをはじめとする会員及び関係団体との交流や、総会・理事会等の会議を実施した。

Ｂ．新年のつどい（１月１０日　　京都ライトハウス）

Ｃ．第７１回全国盲人福祉大会（６月１１日～１３日　　東京都）

Ｄ．地域団体訪問

正副会長を中心に、本会との有機的連携を目指して地域団体の訪問を行った。

年間実績　計　３０回

Ｅ．各種会議の開催

定時総会、理事会、正副会長会議、職員会議、その他必要に応じて、会議・打ち合わせなどを行った。